

令和4年度(令和3年度分評価) 学校法人滋慶学園 札幌看護医療専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

学校関係者評価委員会実施日：令和4年6月7日(火)16時～18時

評価委員：(順不同 敬略 委員長◎) ◎三上真広 安達惠美 平館晃 青木一太 佐藤忠寿 中村琢哉(書面)

令和3年度自己点検自己評価による(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【理念・運営目標】	札幌看護医療専門学校は、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことを使命とし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を教育の柱とした、業界に直結した職業人の養成を実践する高等教育機関である。また、「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを学校運営の基本方針としている。 本校は、産官学を通じた最先端の医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。
【組織目的】	札幌看護医療専門学校は、産官学を通じた最先端医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。
札幌看護医療専門学校 【運営方針】	1. 「産官学連携とICT教育」を核とした学校作りを行い、学校をブランド化する。 1-A 地域や最先端医療機関との教育連携体系をつくること。 1-B ICTツールを導入し、活用を推進するための教職員研修を実施する。 2. オンラインとオフラインでの広報システムを確立し、様々なチャンネルで情報発信すると共に、受験生の職業観・勤労観を醸成する事で全学科で入学定員を達成すること。 3. 将来に向けて「オンライン」を核にした商品開発を行うこと。

※評価は3段階評価であるが評価者平均値のため小数点まで表記

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	2021年度自己点検	2022年度の改善方策	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
1 教育理念・目的・育成人材像	教育指導要領 入学案内 事業計画	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	学園の理念・目的・育成人材像を明確に定めている。産官学連携とICT教育を学校作りの柱とし、産業界及び地域と共に学ぶ教育環境のもと、最先端の学びで地域に貢献する医療人を養成していく。	2022年度は開校2年目となるため、学園の理念や学校の方針・特色・将来像については繰り返し職員間で共有し浸透を図る。	3.0	3.0	3.0	TEAMSを取り入れての授業はとてもメリットを感じる。全講師の方に使用方法を知ってもらい活用してもらいたい	理念・方針については引き続き学内での浸透を図るよう努力を続ける。 本校の特色であるICT教育に関しては、職員のみならず200名を超える非常勤講師にも、主旨・目的・メリット等を伝え協力してもらえよう努力を続けていく。 ICT教育推進のため理念、事業計画、運営、職員育成と大変なことと思う。
		1-2 学校の特色は何か	本校の特色は、「産官学連携とICT教育」である。医療×テクノロジーの新しい学びを推進し、医療現場のIT化、デジタル化に対応しうる人材の育成や産官学連携プログラムの構築により地域医療の発展に貢献できる人材の育成に取り組む。ICT教育を推進しWEBやSNSを通じて情報を常に発信し、新しい医療の学校としての価値(ブランド)を創る。	特に医療とテクノロジーの新しい学びの構築は、授業を実施しながら改善を繰り返していく必要があるため、職員間での学び合いを通じて精度を高めていく。	3.0	3.0	3.0	電子教科書導入にあたって色々メリットは感じられるがトラブル等が発生する事も予想されると思う。次年度導入の状況報告を受けたい	
		1-3 学校の将来構想を抱えているか	医療業界・地域の新しい情報・ニーズを常に取り入れ学科のイノベーションや新学科・新専攻等をスピード感を持って実践出来る組織にする。2021年度は、翌年度のカリキュラムに取り込めるイノベーション活動を行った。	イノベーションについては、2022年度から3学科で電子教科書の導入、視能訓練士学科で大学の心理学部等との選択ゼミ、臨床工学技士学科でオンラインスクールとの連携によるIT授業を展開していく。	3.0	3.0	3.0	理念・目的が明確かつ明文化されており素晴らしいと思う。医療教育のICT化も積極的に導入されており次世代の教育を感じることが出来た。 理念目的等が具体的であり、分かりやすい。	
2 学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の5カ年計画に基づき、明確に定めている。運営方針の実現のため、月2回の運営会議、月1回の職員全体会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。	(課題に対して)各部署長で行われる月2回の運営会議にて「事前に各スタッフから広く議題を収集する」「会議内での報告項目を短縮し、討議に費やす時間を確保する事」の2点で課題解決に取り組む。	3.0	3.0	3.0	事業計画の策定、組織の運営も明確で理解し易い。就業規則も整っておりテレワークまで想定されている事には学校のスピード感を感じた。 卒業生の集約は昨年度の課題としていたが改善されていた。 コロナ禍で大変な中、学生を大切にされた学校運営が行われていたと思う。	
		2-5 事業計画は定められているか	学校の組織目的に沿った事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、各部署ごとのリーダーも部署別の計画と予算案を作成しスタッフと共有している。新規校として開校まもないため、学校・学科の教育体制の整備と運営に係る経費の計画的な収支計画に沿った学校運営を図り中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。		3.0	3.0	3.0		
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学校運営に関する意思決定機能は運営会議が担っている。事務局長・学科長・部署長で構成されたメンバーでPDACサイクルを廻すプロセスを構築している。目標志向性の高い組織運営が行われており、組織の全体像は、事業計画書の組織図に示されている。教職員への通知は、毎日の朝礼・終礼においても遅れなく周知している。課題としては、開講1年目で想定外の事や決めていないルールなどが多く発生し、問題が発生してから対策を話し合う場面が見られた点。先回りの運営を心掛けたい。		3.0	2.0	2.5			
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	医療系学校としてのコンプライアンスに則り、人事採用計画、人材育成の研修は、システムとして確立され、機能している。採用は、学園本部が中心となり、採用広報、採用試験を実施している。採用にあたっては、採用基準の基、厳正に実施している。また、学校・チーム・個人の目標を明確にした業務を遂行し、その成果に対して賃金制度を設けている。常に、職場満足度の高い職場環境創りを意識している。		3.0	3.0	3.0			
	2-8 意思決定システムは確立されているか	明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・部署別会議等)で周知し、運営上、生じる課題についても早めに解決できるように心がけている。		3.0	3.0	3.0			
AS400 サイボウズシステム 口頭説明	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	業務のマニュアル化とシステム化が推進され、学校に関する重要データ(学生・卒業生・教職員・広報・財務など)は学園の業務システムで一元管理されている。また、教職員個人の情報交換も「ガルーン」による学内コミュニケーションシステムや勤怠システム、精算管理システム、人事データバンクシステム等を構築し管理している。		3.0	3.0	3.0			

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2021年度自己点検	2022年度の改善方策	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評点】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評点】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評点】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
3 教育活動	教育指導要領	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	教育課程編成委員会を通じて業界の人材ニーズに向けてカリキュラム変更を行っている。また、厚生労働省の指定カリキュラム変更を見据えて各学科の教育協議会との連携を行いカリキュラムを検討した。	<p>・新カリキュラムに伴うカリキュラム・マップの整備を行う、講師および学生の科目間連携のミエル化を行う。</p> <p>・新任教職員含むICT教育の研修会を定期開催する。またICTのマニュアルを整備する。</p>	3.0	3.0	3.0	講師研修会でICT教育の研修を実施するとあるが実際にどのくらいの講師が参加し授業に取り入れているか。学校側の達成目標は伝わっているか否か。	<p>講師研修会でのICT教育研修に関して、参加者数や成果をまとめていく。</p> <p>4学科の横連携がしやすい環境整備を行っていく。</p> <p>授業アンケートは実施するだけでなく、経年比較や講師ごとの授業改善に活用していく。</p> <p>引き続き退学者の減少と国家資格の全員合格を目標に、体制を作っていく。</p>
	教育指導要領	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	実学教育・人間教育・国際教育の理念の下、各学科の養成目的と教育目標を定め、修業年限に応じた教育到達レベルを明確に設定し、教育活動を実践している。コロナ禍の影響で学外実習の制限があり学内実習にて振り返り実習が行われる。教育成果については進級判定会議や卒業判定会議で到達レベルの確認が行われている。		3.0	2.0	2.5	外部要因によるコロナ禍の影響で満足度のいく対面授業や臨床実習の少なさを補填に姉妹校との連携でカバーする等工夫による相互に高め合う姿勢や学内実習の在り方が評価できる。	
	教育指導要領	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	各学科ごとカリキュラムポリシーを明確に定めカリキュラムを定めている。また、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の各郡を指導要領上に可視化し、科目間のさらなる連携を図った。		3.0	3.0	3.0	4学科の横連携について何でも話せる環境のベースづくりとして全スタッフの交流が有効かと思う。	
	教育指導要領	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	科目横断的な理解を促すためにも、科目間の連携を図るよう、かつ、学生の習熟度に適合するようカリキュラムマップにより適正な位置付けを行っている。次年度新カリキュラム移行に伴う改定が必要。		3.0	3.0	3.0	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アデミッションポリシーの明文化によって入学希望者から学生まで一貫した教育を提供できていると考える。	
	教育指導要領	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	目標設定、実践、評価のプロセスからキャリア教育の推進を図るため、産学官協同教育のプログラムを導入し、協同研究・開発ができる企業・施設・自治体と連携を図った。今年度もコロナ禍の影響により対面とオンラインシステムも活用したハイブリット実施になった。		2.5	3.0	3.0	新カリキュラムにおいて見える化を図っており来期のカリキュラムも楽しみにしている。	
	教育指導要領	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	授業アンケートは、9月、12月に実施し学校全体及び科目毎の課題を抽出した。公開授業により、教員自ら授業改善の気付きを促す体制となっている。		1.5	3.0	3.0	授業アンケートのフィードバックも実施されておりほぼ4.0に到達されていた。成績評価、単位認定も明確になっている部分が評価できた。	
	教育指導要領	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	各専門分野の教員確保に尽力し、組織として教育ができるように配慮している。講師研修会では授業アンケートを元にICT教育の研修を実施し、教員と講師の連携により協力体制を構築している。		2.2	3.0	2.8	国試対策は重要な課題であるので手厚いサポートや外部講師を含めた対策チームの組織も有用な手段であると思う。	
	事業計画	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	学園グループ全体の方針に基づいた体系的なFD研修、分野ごとの教育部会にての研修を実施している。また、ICT教育研修会を適時実施し教育力向上に努めた。年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加を行い教員の資質向上に努めた。		3.0	3.0	3.0	専門職の養成という難しい教育の中コロナ禍による現場実習も満足にできない中で高い国家資格取得率をあげられていることは素晴らしい。	
	教育指導要領	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は学則、細則に示されているとおり明確である。また、評価の方法に関しても、シラバスに記載し、学生に公開している。		3.0	3.0	3.0	外部講師の方の授業準備等配慮いただければと思う。	
画面説明	3-19 資格取得の指導体制はあるか	各学科にて前年の反省をふまえ国家資格対策を展開した。入学学生の状況を考えると、より早期からの対策が必要である。医療系国試対策委員会にて、学科間にて成功事例を共有し、問題点を検討し全員合格を目指す必要がある。	2.5	2.0	2.3	医療人として人と人のコミュニケーションを密にとるということを私達世代がしっかりと学びそれを指導していくことが重要。			

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2021年度自己点検	2022年度の改善方策	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評価】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない		
4 教育成果	画面説明	4-20 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2022年4月1日現在、就職希望者における就職内定率は99.3%となった。残り1人の卒業生が就職活動を継続している。(4/13全員内定)また、卒業生の就職希望者率は、97.1%となっており、医療職就職率は100%となった。就職希望から外れた主な学生は、進学(1人:学外進学)や、次年度(国家試験)採用試験再受験(3人)である。一部の学科で国家試験結果後に就職受験の学生が存在するが、昨年と比べると減少しており、受験先への理解と承諾を得ながらの就職受験ができている。	学科間連携を行う交流会および授業を実施する。低学力者対策およびスクールカウンセラー積極的活用し、ICTを活用した講義や学生サポートを行うことで、支え合う学科を超えた仲間を構築する。	3.0	3.0	3.0	改善方策にもあるがICTを活用することで資格取得率の向上を図りもつと上を目指して欲しい。 各種サポート体制の強化が工夫されており各施策の振り返り評価を都度実施することでスピーディーな対応が期待できる。 退学率の低下の取り組みもされており放課後学習サポートの対策やワークショップの実施も素晴らしいと思う。 スクールカウンセラーの存在も心強く学生のサポートも手厚いと感じた。 原因分析を徹底して行っておりその対策について充分検討し措置されている。	引き続き退学者の減少と国家試験の全員合格に取り組んでいく。そのために必要なデータの収集やグループネットワークの活用、学生・職員の声などあらゆる情報の収集とネットワークを活用し、目標達成に向けて努力する。
	画面説明	4-21 資格取得率の向上が図られているか	毎年、前年の振り返りとともに、時期ごとの目標設定、各検定試験ごとの目標合格率設定を行っている。また、正課外の補習、個別対応を行っている。入学時の基礎学力テストにより、低学力者の早期発見とサポートを実施しているほか、全学科で自己学習の早期習慣化に取り組んでいる。医療系国家資格の取得については、全4学科中1学科において、100%合格となった。3学科は全国平均を上回っている。		2.0	2.0	2.5		
	画面説明	4-22 退学率の低減が図られているか	退学率について、目標は未達成である。一人ひとりの可能性を最大限に開花させるために、転科転校も視野に入れ、本人の新たなキャリアプランをサポートしている。2021年度の退学者は4.9%であった。		2.6	2.0	2.2		
	入学案内	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界と学校との強固なパイプ作りにより、卒業生の就職先訪問を積極的に実施し、同窓会活動を通じて連携を図っている。		3.0	3.0	3.0		
5 学生支援	画面説明	5-24 就職に関する体制は整備されているか	キャリアセンターと教務が一体となって、学生の就職支援にあたっている。各学科の就職活動の時期を意識し、就職講座や一部の学科では企業合同説明会などを開催することにより、就職意識を醸成している。また学生には、企業(求人)情報の提供や状況に合わせた模擬面接を実施するなど、早期就職内定の向上に努めている。一方、キャリアセンターは定期的に各企業へ訪問し、求める人材や業界動向などを察知し、学校(教務)にフィードバックする体制を取っている。	新校舎への移転に伴い学生の課外活動を推奨していく。具体的には部活動設置の希望があれば検討を進め、ボランティア活動については積極的に推進する。また、フィリップスジャパン社と連携し進めている「ハートセーフティ構想」において、救命訓練を積んだ学生ボランティアの育成を実行していく。	3.0	3.0	3.0	定期的な外部のキャリアコンサルタント等の活用で初期の段階からキャリア教育を行うことも学生の意義を養える一つの手段かと思う。 スチューデントサービスセンターを紹介するリーフレット配布等サポート体制が整っている。 奨学金の制度を活用する学生が多い中で事務局による手厚い支援があることで安心して学生が進学できる事はとても評価できた。 学生の健康管理にも力を入れており保護者も安心できると思った。 卒業生へのサポート体制も今後楽しみにしている。 カウンセラーの配置等支援には取り組んでいる姿勢を感じる。学生の自立を促す支援の在り方も必要かと感じる。 地域と連携した学生の学外活動の支援が充分になされている。	引き続き学生・保護者・卒業生等の支援体制を強化していく。
	画面説明	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	カウンセラー(臨床心理士)が勤務するSSC(スチューデントサービスセンター)が整備されている。全学科の入学前保護者説明会にて、SSCを紹介するリーフレットを配布している。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	本校の学生の71%が給付奨学金を含む日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度の利用率は非常に高い。そのため学生支援事務局においても奨学金に関する専門スタッフの育成と学生教育に力を入れている。また、家庭の状況に応じた相談もっており、学費納入方法についても柔軟に対応している。学科においては年に1回保護者会を実施し情報の告知と案内の徹底を図っている。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	日本健康倶楽部(2021年10月からは札幌検診センターに変更)での健康診断の実施に関しては学校保健法に規定するコンプライアンスを遵守し、学生の健康状態の把握と改善を行い、医療法人慶心会による健康管理体制の協力により健康管理の組織体制は整っている。		3.0	2.0	2.2		
	画面説明	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	地域と協力し、歯科衛生士学科において幼児向けの歯ブラシ指導等の予防教育、視能訓練士学科において地域の保育園児の眼科検査にあたった。		2.3	3.0	3.0		
	画面説明	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮については恵庭地区に男子寮1棟、女子寮1棟、男女共用寮2棟、札幌地区に男女寮1棟を有しており、地方からの学生にも対応できる体制となっている。寮には寮長が在駐し健康管理、生活指導を担っている。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-30 保護者と適切に連携しているか	各学科においてオンラインを含めた保護者会を入学後学年ごとに実施をしている。保護者説明会では、学習面、就職面、国家試験等の報告を実施の他、必要に応じ学費相談や個別保護者面談による問題解決を行っている。		2.8	3.0	3.0		
	HP	5-31 卒業生への支援体制はあるか	北海道ハイテクノロジー専門学校卒業生と、2022年3月本校卒業生に対して、同窓会組織を結成しており、各学科では勉強会等の卒業教育の実践にあたっている。コロナの影響で、実施は臨床工学士学科のみ。(リモート)		3.0	2.0	2.2		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2021年度自己点検	2022年度の改善方策	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
6 教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法規上の施設設備は整っているが、実学教育実践のための学内実習の充実のため、更なる整備が必要である。次年度は3学科で電子教科書が導入され、各学科充電設備が導入予定。	・電子教科書の導入に伴う、PC環境および使用方法の基礎をつくり、より良いICT教育環境を構築する。 ・学生および教職員合同の防災訓練の実施。	2.7	3.0	3.0	申し分の無い設備環境である。 海外研修もオンラインでの実施も行っておりコロナ終息後の活動も楽しみにしている。 防災訓練も実施され万全な体制を感じることができた。 近郊病院との連携協定の予定等独自の環境整備もすすめられていると思う。 電子教科書のメリット、デメリットはまだまだ各教育機関において精査しきれていないと思われるので学生に対するアンケート等でその効果の分析と情報発信をお願いしたい。	電子教科書のメリット、デメリットについて学生に対するアンケート等でその効果の分析と情報発信を実施していく。
	口頭説明	6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習については、十分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した実習が計画されている。 海外研修は、コロナ禍の影響でオンラインでの実施を行った。		2.1	3.0	3.0		
	防災訓練資料	6-34 防災に対する体制は整備されているか	コロナ禍による影響で教職員の防災訓練は実施でき、防災の意識を高めている。学生、教職員ともに災害時の安否確認システムを各校で有し訓練を行っている。 AEDは設置しており、次年度は救急時における知識の習得と意識付け研修を実施予定。		3.0	3.0	3.0		
7 学生の募集と受け入れ	募集要項	7-35 学生募集活動は、適正に行われているか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出願は9月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。募集要項に関しては、入試制度、奨学金制度、学費に関して受験生にとってわかりやすい掲載方法を実施している。	医療×テクノロジーの新しい学びを推進、医療現場のIT化、デジタル化に対応しうる人材の育成や産官学連携プログラムの構築により地域医療の発展に貢献できる人材の育成に取り組む。WEBやSNSを通じて情報を常に発信し、新しい医療の学校としての価値(ブランド)を創る。	3.0	3.0	3.0	現状で施設の設備環境はVR,MR等をみても魅力的だと思う。数年先もこの設備環境を維持進化させて欲しい。 オリジナルアプリ等入段階から最先端のICT教育を意識させて「共感」を創り出すことはとても有効な取り組みだと思ふ。 近隣商業施設の割引連携についてもアピールすることでエリア全体で受け入れ体制を整える貴校の姿勢がアピールできると思われる。 人材育成の部分が評価され学生から選ばれる学校になっている理由も理解できた。 学校アプリの制作に驚いた。 学生募集に関しては丁寧な説明を各高校に行われている。	引き続き真摯な広報活動を続けていくとともに、近隣商業施設等との連携を発信していくことで新札幌地区ならではの取り組みを広く知ってもらおう努力を続ける。
	入学案内/募集要項	7-36 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	教育の成果はHPや媒体を通じて広く発信している。コロナ禍での情報発信としてオンラインコンテンツ(YouTube LIVE、インスタLIVE、LINE相談室等)の充実について取り組んだ。また、地方都市での説明会を実施し、地方在住の高校生を動員することができた。		3.0	3.0	3.0		
	学則	7-37 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしており、入学選考委員会を設け入学試験の判定会議を適正かつ公平な基準のもとに実施している。		3.0	3.0	3.0		
	募集要項	7-38 学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。		3.0	3.0	3.0		
8.財務	財務資料	8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	キャッシュフローの形態を重視し、収入と支出のバランスはとれており、貸借対照表の翌年度繰越収入超過金はなく負債における問題はない。	予算と実績の差異については、1年目の実績をもとに精緻な予算をたて、定点チェックする事で実績を管理していく。	3.0	3.0	3.0	確かにコロナ禍により削減できた費用もあるがそれ以上にかかる費用の方が多い事、予算予測も困難であることから自己評価を低くみることはないと考える。 財務においては収入と支出のバランスも取れていると安心してできた。	財務を万全にする事で学生への教育や未来に投資できる体制を作っていく。
		8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	校舎の新築による設備投資に対する返済計画と事業収支計画を見直し学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。運営面においては管理費等の項目で予算と実績の差異が生じた。		3.0	2.0	2.5		
		8-41 財務について会計監査が適正に行われているか	理事会においての内容精査し、監事による監査と外部の監査法人である公認会計士の監査を行っている。		3.0	3.0	3.0		
		8-42 財務情報公開の体制整備はできているか	「財務情報公開規程」を作成し財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め公開している。具体的な事項は「情報公開マニュアル」を作成し、「財務情報公開規程」により管理、運営を行っている。		3.0	3.0	3.0		
9.法令等の遵守	組織図	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っている。教員間での法令・基準の遵守に対する教育、又は研修を継続的に実施している。また、監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。	引き続き法令順守、個人情報保護、自己点検・自己評価に基づく学校運営の改善を図っていく。	3.0	3.0	3.0	コンプライアンスの実施状況についてもチェックされているので安心できる。 ホームページの公開等充分なされていると思う。	引き続きコンプライアンスを重視していく。また法令の変更等にも即時に対応できるよう情報収集に努める。
	画面説明	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	日本プライバシー認証機構より個人情報保護規程運用状況監査を受け、学生、保護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用を行っている。また、スキル向上のための取り組みとしてITリテラシー資格の取得や研修会を実施している。		3.0	3.0	3.0		
	本会資料	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価についての方針、実施を開始し、委員会の形成と外部評価を実施している。 学校関係者評価、並びに教育課程編成委員会での意見を十分に反映し、カリキュラムの見直しやICT教育を含めた新しい教育体制の確立に向けて準備を行っている。		3.0	3.0	3.0		
	HP	9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	毎年自己点検・自己評価を実施し、HPによる公開は既に実施している。 自己点検自己評価結果をもとに、重点課題について学校関係者評価員と学校づくりの検討を行い、更なる評価の向上に努めている。		3.0	3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2021年度自己点検	2022年度の改善方策	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来てい る 1: 出来ていない	【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない		
10.社会貢献	画面説明	10-47 学校の教育資源や 施設を活用した社 会貢献を行っている か	10月～12月に地域の方を対象とした「地域医療セミナー」を開催し、毎回定員になるほど好評を得た。 また、札幌学院大学と連携し、地域内のAEDの実態調査と救命講習を実施。さらに厚別区内にある老健施設の職員向けの救命講習会を実施した。	今後も地域との連携を重点課題とし、厚別区・新札幌地区と連携して地域でのボランティア活動と地域課題の解決に取り組んでいく。 具体的には、 ・近隣保育園と連携した歯科講座や視能訓練講座の実習プログラムの実施 ・地域全体での救命率を高める「ハートセーフシティ構想」の推進役となる。 ・厚別区民祭り等での地域健康イベント(無料血圧測定や視力検査)、子供向け職業体験の実施などを実施していく。	2.2	3.0	3.0	ハートセーフシティ構想の今後に期待 各学科の中で地域連携アイデアをワークショップ形式で検討しトップになったアイデアを実現させるプロジェクトに取り組むことで社会人基礎力のトレーニングとともにクラスの団結力もアップしプロジェクト学習の効果を発揮し最終的には国家試験合格へもつながることが期待できる。 地域医療セミナーの開催も含め、ボランティア活動も実施されており素晴らしいと感じた。 再開発による新しい街づくりが必要な中で学生の若い力を存分に発揮できる方策を検討出来ればと考える。 地域との連携が年々確実に拡がっていることが実感できる報告であった。	学生の若い力を地域の活力にできるよう、行政なども連携を図っていく。 現状に満足せず、新しい取り組み・アイデアを実行していく。
	画面説明	10-48 学生のボランティア 活動を奨励、支援し ているか	地域と協力し、歯科衛生士学科において幼児向けの歯ブラシ指導等の予防教育、視能訓練士学科において地域の保育園児の眼科検査にあたった。	また、学校資源を活用した取り組みを推進する「学校資源活用事業」を2022年度計画に盛り込み、実行していく。	1.5	3.0	3.0		
11 国際交流	口頭説明	11-49 グローバル人材の 育成に向けた国際 交流などの取り組 みを行っているか	新型コロナ感染症の影響により海外渡航の禁止と合わせて海外研修は実施していない。しかしながら学生に国際教育を提供するため、コロナ禍の影響を考慮し、海外とのオンライン講話や国際経験がある講師に授業を通じて教育を各学科で開催した。	学園のグループネットワークを活用し、オンラインでの海外連携授業などを今後も実施していく。	1.8	3.0	3.0	今後の活動に期待している。 現状では難しいと思われる。	情勢を見極めて、オンラインセミナーなどのできる事を実施していく。